

テーマ2 災害に強い地域づくり（インフラ整備、インフラ活用の視点を中心に）

〔提案理由〕

- ・近年は、都市部におけるゲリラ豪雨、山間部における未曾有の集中豪雨など、災害の様相が大きく変わってきている。さらに、東南海・南海地震の発生の危惧など、多様化する災害について、その対応策の検討が急務となっている。
- ・道路特定財源の一般財源化に伴い創設された「地域活力基盤創造交付金」は用途を道路整備のみに限定せず、地域の持っている課題解決のため、災害対策など有益な活用が求められている。

〔県民の声〕

- ・集中豪雨が起きた際に、下流域の住民に直ちに危険を通報できるシステム作りが急務である。
- ・中越沖地震での住宅被害を見て、住宅の耐震補修が大事だと思った。例えば「住宅耐震診断の日」を定めるなどして、効果的に住宅耐震診断を促進してはどうか。
- ・周辺部の山岳地帯に崖崩れがある。梅雨時期は不安である。防災対策の強化をお願いしたい。
- ・災害復旧に当たっては、ただ元に戻すのではなく、専門家の知識と技術を活用して再び被災しないようにすべきだ。
- ・地震の際、広報車での注意や避難所等の案内が一度もなかった。市などに広報車で情報提供するように要請してほしい。

〔議論のポイント〕

（1）近年の災害に学ぶもの（都市部の災害）

- ・ゲリラ豪雨、住宅密集地における地震被害などの事例から考えられる、都市部における災害対策について。

（2）近年の災害に学ぶもの（地方部の災害）

- ・生活道路の被災による孤立集落の発生、これまでになかった小雨でのがけ崩れなど地方部における災害対策について。

（3）効果的なソフト対策について

- ・災害時の情報提供方法や、災害への事前の備え・心構えといった啓発活動など、幅広いソフト対策について。

〔議事概要〕

（情報発信・伝達の必要性）

- ・ゲリラ豪雨は、ある程度過去の経験から予測できる。ライン川やセーヌ川では必ず集中豪雨が発生する。時期になると、TVやラジオで情報を流す。いつ来るかわからないが、前向きに情報を流すことが大事。
- ・昔から住んでいる者はコミュニティの一員となっているが、転入者はコミュニティに入れておらず、情報も入手できない。安全・安心メールを積極的に進めてもらいたい。
- ・安全・安心メールはあくまでも予報であって、いざというときに役にたたない。刻々と情報が入ってこない。危険になった状態を連絡できないのでは。
- ・アクセスが集中した場合、携帯会社がアクセスを遮断するのでは。
- ・何があっても住民が連絡をとれるシステムが必要。高齢者に対して無償で生存安否の確認だけでもとれるシステムが必要。
- ・孤立状態になった際に、独り暮らしの老人は電話線が切れたら終わりである。独り暮らしの老人の連絡づくり体制の方が早急に必要
- ・災害時の通行止めの状況がわからない。
- ・地元の災害情報をケーブルテレビで流してもらいたい。
- ・有線の情報システムでは、線が切れたらだめ。衛星を利用し、どこでも携帯がつながるようにしてもらいたい。

(集落の孤立対策・道路等の整備)

- ・ドイツや韓国では、飛行機の離着陸ができる道路を建設。主幹的な部分がしっかりしていれば細部が壊れても孤立することはない。
- ・災害があった際に影響するのは道路。災害発生時に緊急的な道路を作れるノウハウを自衛隊から学び、訓練をすべき。
- ・災害発生時にいつも壊れる山道がある。時間もお金もかかるであろうが、整備してもらいたい。また、災害発生時に活用できる2次3次の道路確保も必要。
- ・災害後の整備も早急をお願いしたい（道路への落石の排除等）
- ・現在の土木技術には、災害に十分対応できる技術力があると思うが、予算がないことを理由に、安全・安心な暮らしが確保できていない。県は国に対して、もっと予算要求してもらいたい。

(地域防災コミュニティの確保)

- ・地方部は地域コミュニティが発達しており、災害が発生した場合、すぐに話し合いがあるが、都市部はどのように対応しているのか。
- ・災害後、県民自らができること（落石の排除）を行うような、意識づくりが必要。
- ・災害により孤立集落となるような地域では、若い人が住まず、人がいなくなる地域となってしまう。孤立集落を防止するためには地域コミュニティの整備が必要。
- ・災害発生時に孤立する恐れがある地域では、応急手当の指導講習が必要では。自発的な相互支援システムがあれば安心できる。
- ・小規模集落では災害に遭う前から既に被災者状態。地区住民が高齢者の面倒をみる取り決めがあるが、行政にはシステムが確立していない。

(被災者支援のあり方)

- ・例えば学校の敷地内にヘリポートを設置しておけば、災害の際にヘリコプターを着陸させることができる。医療体制を確保するためには、金がかかっても計画的に作っておくことが重要。
- ・災害発生時の支援は、被災者のニーズに沿ったものでなければ意味がない。行政の一方的な支援ではだめ。

(防災の観点からの諸施策)

- ・近年は、山の開発が災害発生の原因となっている。災害抑制的な面から見た開発の規制が必要では。
- ・災害後の修復には、環境の変化に対応したものでなければ、修復したところが毎年壊れてしまう。場当たりの修復ではだめ。
- ・小規模集落での耕作放棄地が災害の原因となっていることから、例えば、外国人を住まわせるというような耕作放棄地対策が防災の観点からも必要。
- ・災害が発生し避難した人が公共施設のトイレを自由に使えるように、外からトイレに入られるような公共施設づくりが必要。